

編集後記

本研究懇談会会誌第24巻1号をお届けします。今回の巻頭言欄には、スペイン Valencia 大学の Calatayud 先生にご寄稿をお願いしました。 ”Flow Injection Analysis of Pharmaceuticals, Automation in the laboratory”, Taylor&Francis,1996 の著者としてご存知の方も多いかもかもしれません。また、国内からの巻頭言は小川商会の樋口慶郎氏に「FIA をめぐるシーズとニーズをつなぐには」というタイトルでご寄稿いただきました。FIA の事業を立ち上げあれ、これまでに開発された装置とともに前処理としての分離や濃縮法にいたる様々なご経験から、シーズとニーズをつなぐことの重要性をご提言いただいています。

指標欄には、永年にわたって本 FIA 研究懇談会の委員長をお勤めいただきました岡山大学の本水昌二先生にご寄稿いただきました。「化学分析の新機軸：FIA から CAFCA へ」というタイトルです。先生によれば、CAFCA とは Computer Assisted Flow Chemical Analyzer との略号で、流れを利用する化学分析法をコンピューター支援により前処理から測定、データ解析まで行うとするものです。FIA 法、SIA 法に継ぐ、第3世代の流れ分析法として、本水先生ともども期待したいと思います。奇しくも Calatayud 先生の巻頭言とも通じるのはこれからの FIA 法の向かうべきベクトルを指示していただいたような思いがします。

パーソナルレビューの欄、解説欄および総説欄はお休みさせていただきました。次号をお楽しみにしていただければ幸いです。

研究論文の欄には、今回は国外から4報、国内から1報の論文が投稿されました。

トピックス欄にはマイクロチップを利用するグルコースセンサの駆動電源として燃料電池を利用する試みが紹介されています。活発に研究が行われているマイクロチップ技術に必要な要素だと思われます。

国内の学会情報は、徳島大学の田中秀治先生にまとめていただきました。また、FIA Bibliography は、前回からは岡山大学の高柳俊夫先生にお願いしております。多くのジャーナルを検索していただいています。大いにご利用いただければ大変うれしく思います。

今年の12月にはタイのチェンマイでも流れ分析に関する国際会議が予定されています。この会議で発表された研究を、本誌の研究論文として投稿していただく企画をしております。今後とも、会員の皆様との情報交換をたく、たくさんのご投稿をお待ちしております。

JFIA 編集委員長
今任稔彦